

野口、石原、清水ら諸兄が寄せられた風景と名文を読んで、今月は自分が出る幕がない、パスしようと思っていました。でも、折角の与えられた機会に自分なりに文字通りの拙稿を届けることにします。

- ① 空襲の思い出： 以前、「父のこと」で述べましたが、1945年5月の昼間に大阪大空襲がありました。

空襲警報が出て家にいた私は北の空が黒い煙に覆われて、時々赤い炎が爆発するように立ち上がる。そこがどんな状況か当時4年生の自分に想像できなかったのが、今TVで毎日のように見るウクライナの現実です。姉が清水谷高女の1年生で朝登校したままでした。両親は娘が心配で居ても立ってもおれなかったと思います。電車は止まったままで、父は意を決して我家から北方へ10km余りを自転車で出かけました。時間が経って日暮れ時に2人が帰ってきたときの母の喜びは如何ばかりか。自転車は当時のブランド「富士」でしたが、途中でパンクしたかもしれない、下手したら大和川の橋の下で野宿したかもと幸運を感謝するばかりでした。

- ② 飛鳥の風景：就職して生家を離れるまで南大阪線・高見の里に住んでいた私にとって幾度となく訪ねた飛鳥や山の辺の道は心に残る風景ですが、今回清水さんの奥行ある写真やその地に纏わる由緒を読んで、自分の思い出は平面的な断片にすぎないことを思い知りました。

ここで、心に残る風景として一つ挙げておきたいのが、真冬の高見山です。奈良・三重県境に広がる国定公園に聳える1250mの山ですが、山頂で目にした**えびのしっぽ**は樹氷とは違った極寒の風景でした。近鉄が募集したハイキングが麓までバスだったお陰で登れた冬山でした。二月後の3月に岡山へ引っ越した私にとって忘れられない思い出です。

- ③ あおばさん 青葉山：若狭富士と呼ばれる秀麗な699mの山で、舞鶴にいた18年に四季折々何回登ったかわからないほど親しみました。頂上は大きな岩塊で高浜原発が北方指呼の間に、東に目をやると若狭湾を小浜辺りまでの海岸線が広がります。多くの場合、息子2人を連れましたが就学前の次男の胴にロープを巻きつけて頂上の岩に引き上げたこともあります。真冬に積雪の稜線を歩くと別の山を感じました。当時、高浜原発は2炉でしたが、今は4炉で計

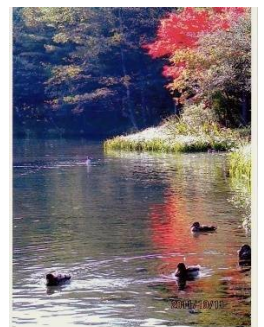
339万kWと大きく、原発再稼働の先駆けで話題になっています。

▼大山：60年前ですが、主峰（弥山）から東へナイフエッジの稜線を辿り、やや下った三鉢峰にたどり着くや青空の下から白い雲が湧き上がってきたときのダイナミックな情景は忘れられません。（崩れやすい地質なので、主峰ピークを栈道で覆い、稜線への進入禁止がその後の現状です）

- ④ 苦小牧研究林：北大が持て余して荒れるに任せていた演習林を蘇らせたばかりか1/3を市民の森にした「泥亀さん」の話を岩波新書で読んで、苦小牧郊外の森を訪ねたときは紅葉に埋もれて

旅の疲れを癒されました。（この新書が手元がないので泥亀さんの本名が出てきません）

▼札幌郊外の野幌森林公園：広くて立体感に富んだ日本一の森林公園ですが、博物館や100m記念塔に目が移って一日で歩ききれず、北海道へ行くたび訪ねても全貌が未だにつかめていません。



▼ブローニュの森：言わずと知れた公園ですが、華やかなパリの郊外でここは静かな散歩道です。▼ベルリン郊外のグリュネヴァルト：大きな湖に沿った高木の森で、Sバーンが傍を走ってると思えない静かな環境でいつの間にか迷路に入りこんだような気がしました。

▼ウィーンの森：旅立つ前に観光バスチケットを手配してあったのにバス停を間違えて待望の森に行きそこなったのが残念でしたが、近くの古城跡の高台から大河ドナウの流れを見下ろすことができたら気分を晴らしました。

⑤ 倉敷教会：三浦綾子の「ちいろば先生物語」を読んで、去る 23 日に倉敷教会での読者会に参加しました。イエスキリストの使徒として生涯を捧げた牧師の話に感動しながら読み終えたばかりで、20 人ほどのクリスチャンの輪に異分子の自分が入り込んだ 3 時間足らずでしたが、穏やかな人たちに親しみをおぼえました。会合のあと、別棟の礼拝堂に案内され、翌日のコンサートを前に楽器を調律作業中ながら厳かな雰囲気でした。これまで無縁だった基督教ですが、ヨーロッパの大聖堂とは違って増改築を重ねた石積みの建築に日本での歴史を感じました。



終りに： 長い人生で様々な風景や情景にふれてきました。暮らしと仕事で間近にあったり、旅先で非日常の風景など色々ですが、心に残るかどうかはそのときの感受性と受け止めようだと思っています。50 代になって、QATAR で体験したのは砂嵐が見舞う砂漠と海岸線もホテルのプライベートビーチしか歩けない、観光とは程遠いところでしたが、マーケットでは陽気な人達と新鮮な野菜や果物が溢れていました。後年、そこでのワールドカップを TV で見ると別国の感じがしました。

過去とこれから、明日はわからぬ人生をどう生きるか、沈むこともあります。KOZOOM のお陰で心身とも元気に暮らさせてもらっています。ありがとうございます。 (おわり)

2023.6.27 KOZOOM28 サロン（第 36 回）を明日にして駆け込み